# 小学校授業補助（明成小学校）

団体名●丸井ゼミナール／代表者名●石本彩乃（人間科学部こども学科２年）

## はじめに

こども学科２年生の「学校インターンシップ（小学校）」では、小学校教員を目指す学生が学校現場に足を運び、さまざまな教育活動に参加し、体験的に学習する内容がある。具体的には、教員の仕事の補助をしながら教員に必要な資質・能力は何なのか、教員としての心構え、どのように児童と関わるべきなのかを自ら体験することで学んだ。

私たち丸井ゼミの２年生は金沢市立明成小学校にて「学校インターンシップ（小学校）」の活動を行った。活動内容や学んだこと、今後の課題について述べていく。

## 活動内容

丸井ゼミでの「学校インターンシップ（小学校）」では、週に１回、２～３時間ほど授業補助を行った。対象の児童は１～６年生の全学年で低学年から高学年まで幅広く関わった。授業の中で補助教員として児童の様子を見て声かけや指導をすることはもちろん、プリント作りやテストの丸つけ、資料の印刷など、授業の中では見られない仕事もさせてもらうことができた。しかし、新型コロナウイルスの影響により本来は１年間を通して小学校に行くのだが、今年は９～２月の半年間しか行くことができなかった。

授業補助では、ゼミ生がそれぞれ１～６年生の教室に分かれて入り、各授業で教員のサポートを行った。１年生の図工の授業では、材料の出し入れをする場所が混雑したり散らかったりしないように「使ったものは元の場所に戻そう」と声かけをした。個別の学習指導では支援が必要な児童に付き添いながらその児童に適した指導方法を見つけ、漢字やかけ算の学習を中心に解き方の工夫を児童と一緒に発見していった。一人一人に合った学習方法を提供することの重要性は私たち自身の学びにもつながった。

毎年行われる「百万石まつり」のパレードでは、６年生が鼓笛隊を披露している。

今年は「百万石まつり」が中止になったため、金沢表参道通りで地域の方々に鼓笛隊を披露した。児童が安心して鼓笛隊の演奏をできるようにゼミ生は付き添って安全面でのサポートをした（図１,2）。

図１　パレードの様子

図２　鼓笛隊の演奏

私たちはこの「学校インターンシップ（小学校）」で得た気づきや課題を毎週の「フィールド基礎演習」の授業の中で共有し合った。それぞれの学びを伝え合いながら、教員を目指す者としての認識を深めた。

## 成果、結果の考察

学ぶ時間や教員と児童に関わる時間が少なかったものの、子どもたちの成長を近い距離で見ることができるのは教員にとって大きなやりがいになると実感した。また、実際に身をもって体験するからこそ苦労する部分を新たに発見できた。授業を行うだけでなく、授業準備やそのための教材研究、プリント作りや丸つけ、教室の掲示物の貼り替えや備品の整理整頓など、児童が下校した後も教員の仕事はたくさんあり、私たち学生ですら、知らない仕事がまだ数多くあるのではないだろうかと考えさせられた。

## 今後の課題、展望

この「学校インターンシップ（小学校）」を通して、教員は児童一人一人と関われる時間が短いと感じた。視野を広く平等に指導・支援を行うにはどう時間を使ったら良いのか、授業内容を工夫することで学力の差を小さくできるのか、教師の助けを求めている児童に気づけるか、今までは見えなかった課題とどう向き合うべきか、これからの授業にさらに熱意がわくと考えられる。